わが市を語る 1

持続可能な「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」を目指して

胎内市（新潟県）

——胎内市長　井畑明彦

はじめに

胎内市は2005年9月1日に旧中条町と旧黒川村が合併して誕生しました。新潟県の北東部、県都・新潟市から北へ約40㎞に位置し、東には飯豊連峰、西には日本海が広がっています。飯豊連峰を源とする母なる川・胎内川を中心に形成された市域は東西に細長く、上流部は四季折々の渓谷美に彩られ、中流部の扇状地は肥沃な優良農地が、また、胎内川河口を中心に15㎞にも及ぶ海岸線には砂丘と松林が広がるなど、山・川・海それぞれの豊かな自然に恵まれています。

基幹産業は農業ですが、新潟中条中核工業団地を造成し、県北の工業都市としての基盤を確立しているほか、かねてより、豊かな自然環境を生かしたスキー場、リゾートホテルなど公設の施設を整え、積極的に観光振興も図ってきました。

全国的な少子高齢化、人口減少などが大きな地域課題となっている中、本市においてもそれは同様ですが、地域が末永く持続可能であることを基底に据え、「未来への投資」という視点をしっかりと持ちつつ、「市民協働」のまちづくりの理念を大切にして、豊富な地域資源を生かしたまちづくりを行っていきたいと考えています。

子育て支援と教育の充実

本市では、通常保育で待機児童がいないことは当然として、病児病後児保育そのほかの多様な保育ニーズに応えつつ、切れ目のない子育て支援を実現させるため、本年4月から妊娠、出産、子育てに関する相談に応じる専門のコーディネーターを配置した「子育て世代包括支援センター」を設置し子どもを授かり、子育てする方々がゆとりと希望を持って本市で暮らし、安心して子どもを産み育てることができる体制づくりを進めています。

また、小中学校における教育に関しては、学校と地域が良きパートナーとして連携・協働して学校運営に取り組むコミュニティ・スクールは教育環境を充実させるために大変有益だと思っています。2年間の調査・研究期間を終了した小学校では、本年4月から本格的にコミュニティ・スクールの運営をスタートさせましたし、そのほかの全小中学校においては、導入に向けた調査・研究に取り組んでいるところです。

これらのことを通じて、子育てや教育を大事にしていこうとする思いを地域の風土へと高められていくことが理想とするところであり、そのような地域の中で育った子どもたちは、きっと感受性や想像力が豊かになり、地域のことにも思いを馳せてくれる大人へと成長してくれることを期待しています。

再生可能エネルギーの導入

未来への投資という観点からぜひ進めていきたいことの一つとして、洋上風力などの再生可能エネルギーの導入があります。本市沖の洋上は風況にも恵まれ、海底は砂地であるなど、設備を設置する諸条件にも恵まれています。地域の特性を生かしつつ、持続可能なエネルギーへとシフトしていく試みは、税収の確保や関連産業の創生などに加え、地域でできる地球温暖化抑止の先進的な取り組みでもあることから、市民の誇りの醸成にもつながっていくと思います。

交流人口・関係人口拡大の促進

観光などによる交流人口の拡大も、現在における地域活性化と同時に未来への投資となる側面があると考えています。人口減少の局面において、当然ながら短期間での人口の社会増は見込めず、自然増はなおのことと思っています。そこで、交流人口、その延長にある関係人口の増加に向けた取り組みを進めていくことになりますが、一度本市を訪れた人がリピーターとなり、中には、四季の移ろいが豊かなこの地でいずれかの季節を過ごしてみたいと思ってくれる人が現れ、「地域おこし協力隊員」に見られるように、定住を望む人も出てくるなど、将来的に定住人口の増加にもつながっていくものと考えているところです。また、本市に開校しており、遠方からの入学者も多い開志国際高等学校や新潟食料農業大学に通う方がこの地で学び、この地で暮らすことで、本市を第2のふるさとと考え、将来にわたって関係がつながっていくことに期待を寄せています。

さらに、本市では恵まれた自然環境を生かしてワイナリーを運営しており、ワイン用ブドウの樹オーナー制度の導入は、関係人口の拡大に寄与しているものと考えています。ありがたいことに、胎内高原ワインは、日本ワインコンクールにおける受賞をはじめ、数々の雑誌などに取り上げられ、非常に高い評価をいただいており、販売先は、県内はもとより国内津々浦々に広がり、その販売数も順調に伸びているところです。今後はさらなる需要に対応するため、クラウドファンディングなどを活用し、製造量の拡大を図っていきたいと考えています。

市の海岸沿いに設置されている風力発電設備

結び

10年先、50年先、100年先という未来を見据えて、市内外の方のさまざまな知恵や力をお借りしながら本市の総合的な魅力向上に努めていきたいと考えています。オールシーズン来訪者を魅了する胎内市をぜひ訪れていただきたいと思います。

自園産ブドウ100%の胎内高原ワイン

プロフィール

胎内市長
井畑明彦

◆**面積**　264・89㎢
◆**人口**　2万9569人
◆**世帯数**　1万795世帯

〔将来都市像〕自然が活きる、人が輝く、交流のまち〝胎内〟

〔まちの特徴〕飯豊連峰を源流とする胎内川を中心として形成され、山川海の美しい自然と豊かな歴史文化にはぐくまれたまち

〔市町村合併〕平成17年9月1日、中条町、黒川村の2町村で新設合併

〔特産品〕米、米粉、チューリップ、紅はるか（甘藷）、胎内高原ワイン、胎内高原ビール、やわ肌ねぎ

〔観光〕ロイヤル胎内パークホテル、奥胎内ヒュッテ、胎内スキー場、胎内自然天文館、胎内昆虫の家、樽ケ橋遊園、乙宝寺

〔イベント〕胎内市チューリップフェスティバル、黒川燃水祭、胎内温泉まつり、胎内星まつり、米粉フェスタinたいない、胎内スキーカーニバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

文京区（東京都）

文京区長 成澤廣修

歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京（ふみのみやこ）」

多種多様な魅力にあふれたまち

文京区は、東京23区のほぼ中心に位置し、下町と山手の文化が融合した多種多様な魅力にあふれるまちです。

紅葉シーズンにライトアップする「肥後細川庭園」

小石川後楽園や肥後細川庭園などの江戸時代の名残をとどめる緑豊かな庭園、護国寺や根津神社などの由緒ある神社・仏閣が区内随所に存在し、都心にありながら落ち着いた雰囲気を醸し出しています。

また、「文の京」の名の通り、森鷗外や夏目漱石などの近代文学史上に名を連ねる文豪たちが暮らしたまちであり、東京大学をはじめとする多くの教育機関が集積する文化の香り高さは、区民の誇りと愛着の礎です。さらには、東京ドームや講道館、日本サッカーミュージアムといったスポーツ資源も豊富にあり、さまざまな魅力があふれています。

選ばれる自治体を目指して

社会全体が人口減少に向かう中、本区では、近年、人口の増加が続いています。人口は1998年に16万5000人台にまで減少しましたが、子育て支援施策や高齢者施策をはじめ、さまざまな取り組みで成果を上げ、都心回帰も相まって、子育て世帯の転入が促進されたことなどから、本年9月には22万人を超えました。

また、将来人口については、2015年に策定した「文京区まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、2030年を過ぎると減少に転じるとしていましたが、本年3月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計によると、今後2040年まで増加し、24万9000人台にまで達すると見込まれています。

これからも、子育て世帯を中心とした生産年齢人口の増加を図る施策や高齢者を支えるための施策を展開し、「文の京」の魅力をさらに高め、すべての区民が住んでいて良かった、これからも住み続けたいと実感し、また、区外の方にもぜひ住んでみたいと思ってもらえる、「選ばれる自治体」として発展し続けることを目指していきます。

新しい官民連携の方向性

本区では、「文の京」自治基本条例において、「協働・協治」を自治の基本理念に位置付け、これまで、区民やNPOなどとの協働や、審

健康、家事・育児参画に関する啓発冊子「PAPA&MAMA START BOOK」

議会などへの区民参画をはじめ、豊かな地域社会を実現するためのさまざまな手法を取り入れてまいりました。しかし、複雑化している社会的な課題を解決し、多様化する区民ニーズにきめ細かく応えていくためには、これまでの発想を超えた取り組みを展開していくことが求められています。さらに、企業においても、日本経済団体連合会の企業行動憲章が改定され、社会的責任や法令順守にとどまらず、事業活動そのものを通じて社会的課題の解決に貢献していく方向性が示されたところです。

2017年、本区では、子どもの貧困対策として、「子ども宅食プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、経済状況が食生活に影響するリスクがある家庭の子どもに対して、企業などから提供してもらった食品などを配送する事業です。また、定期的な配送をきっかけに子どもとその家庭を必要な支援につなげ、地域や社会からの孤立を防ぐことを大きな目的としています。

このプロジェクトの特徴の一つに、ふるさと納税制度を活用し、広く寄附を募集することで、活動の原資を調達していることがあります。ふるさと納税に対する返礼品はなく、地域社会の課題解決にお金が使われるという点に意義があります。このことから、自治体が寄附金の使途を明確にして資金調達する、「ガバメントクラウドファンディング」の成功例として取り上げられることが多いのですが、本質は別のところにあります。

それは、いわゆる、民間委託とは異なる、官民連携の手法を取り入れていることです。地域社会の課題解決のため、行政、NPO法人、財団法人など立場の異なる組織が、主体性を保ちつつ対等な関係でパートナーシップを組み、コンソーシアム（共同体）を形成して事業に取り組む、「コレクティブ・インパクト」の手法を活用しています。

自治体の責任として、行政を中心に貧困家庭を支援するといった発想を超え、異なるセクターと対等な立場で協力し合いながら行われる「子ども宅食プロジェクト」は、新しい官民連携の方向性を実証する取り組みであり、社会全体の共助の力で子どもたちを守ろうという思いが込められています。

これからも、固定観念にとらわれない挑戦の姿勢で、区の直面する課題に果敢に取り組み、効果的かつスピード感を持って課題を解決し、質の高い施策へとつなげていきます。

「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」を締結する熊本市にある3農協よりお米が寄贈された「子ども宅食プロジェクト」

プロフィール

文京区長
成澤廣修

◆**面積** 11・29㎢
◆**人口** 22万4462人
◆**世帯数** 12万550世帯

〈将来都市像〉 歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」

〈まちの特徴〉 東京23区のほぼ中心に位置し、緑豊かな庭園や由緒ある神社・仏閣、大学などの教育機関、スポーツ資源などが区内随所に存在。明治以降、印刷・製本業が発展。また、大学附属病院などが多く立地することを背景に医療関連産業が集積

〈観光〉 東京ドームシティ、文京シビックセンター展望ラウンジ、湯島天満宮、根津神社、小石川後楽園、肥後細川庭園、森鷗外記念館、旧伊勢屋質店

〈イベント〉 文京花の五大まつり（梅、さくら、つつじ、あじさい、菊）、文京朝顔・ほおずき市、根津・千駄木下町まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

田原市（愛知県）

渥美半島を元気に！

田原市長　山下政良

田原市はこんなまち

田原市は、愛知県の南端、渥美半島に位置し、南は太平洋、北は三河湾、西は伊勢湾と三方を海に囲まれた自然豊かなまちです。

渥美半島の先端には松尾芭蕉の句や島崎藤村の詩にもうたわれた景勝地伊良湖岬があり、1年を通して観光客に親しまれています。また、赤羽根地域には「太平洋ロングビーチ」と呼ばれる海岸があり、サーフィンのメッカとして、中部圏・関西圏からの多くの若者でにぎわっています。

歴史に目を向けると、近年発掘された遺跡を含め、縄文時代の貝塚が各所にあり、江戸時代後期の先駆者「渡辺崋山」や漁夫歌人「糟谷磯丸」のゆかりの地としても知られています。また、田原市博物館の名誉館長には、日本文学研究の第一人者であるドナルド・キーン氏が就任しています。

島崎藤村が“名も知らぬ 遠き島より流れ寄る 椰子の実ひとつ”とうたった美しくロマンあふれる砂浜「恋路ヶ浜」

田原市の産業

1968年の豊川用水の通水により、それまでの半農半漁の生活が一変し、キャベツ・ブロッコリーなどの露地野菜や、メロンや菊、トマト栽培などの施設園芸が盛んになり、近年では、農業産出額も800億円を超える、全国でも有数の農業地帯へと生まれ変わっています。

特に、花卉の生産地としては、全国ナンバーワンであると同時に、最近では、生産だけでなく、「日本一の花の生産地」から「日本一花を贈るまち」へと新たなコンセプトの下、流通・消費活動にも力を入れています。

一方、三河湾に面した臨海工業地帯には、トヨタ自動車田原工場をはじめ70社を超える企業が進出しており、農業だけでなく工業も大変盛んとなっています。また、市の取り組みであるエコエネルギー導入ビジョンと併せ、風力や太陽光などの自然エネルギー発電事業者も多く立地し、環境保全・自然エネルギーへの取り組みを積極的に推進しています。

サーフタウン構想の実現に向かって

「サーフィンがあなたの日常になる」をキャッチフレーズとして赤羽根地域を中心に「サーフタウン構想」を計画しています。日本有数のサーフィンスポット「太平洋ロングビーチ」周辺を第一次として、サーファー以外にも若者や子育て世代の方々に移住してもらい、その数を増やすことで地域の活力拡大を図ることを目的としています。赤羽根地域では人口は減少しているものの、サーファーなどの移住者が増えているという傾向があり、回復の契機として考えています。この構想の実現のため世界最高峰のサーフィン大会「ワールドサーフィンゲームス」を誘致しました。

本年9月15日から22日まで、世界42カ国から約200人の選手が集まり、熱戦が繰り広げられまし

た。開催期間中は波も良く、国内だけでなく海外からも多くのサーファーや観客が来場し、大会を成功裏に終えることができました。これを機にサーフタウン構想の実現に向けて大きく前進するものと期待をしています。

「2018アーバンリサーチISAワールドサーフィンゲームス」のオープニングセレモニー（本年9月開催）

東京事務所を開設して

　2016年4月、シティーセールスの推進と、各省庁などとの情報連絡体制の強化を図るため、東京事務所を開設しました。

　この活動の中で、「田原市ゆかり・東京の名店」という冊子を作成しています。内容は、東京で頑張る本市出身者が経営する店舗を、マップ、パンフレットでPRするもので、東京在住の本市出身者や本市民が東京へ行った折に立ち寄っていただこうと、地元の市民館などに配布しています。一方で東京の店舗などには市のポスターなどを店内に掲示していただき、本市のPRに一役買っていただいています。また、飲食店では本市の農畜産物や海産物などの食材を利用してもらい、相互に有益な関係をつくろうとしています。現在は第一段階として都内16店舗を紹介しており「田原市首都圏応援サポーター」として認定証なども発行しています。

子ども・若者を応援

　人口減少・少子高齢化が進む中、子ども・若者を応援することが必要です。本市では、初産妊婦の全戸訪問や産後ケア、産後健康診査など母子保健サービスの強化、365日対応の保育の実施など、働きながら安心して子育てしやすい環境づくりに取り組んでいます。現在、まちの中心部に大型の遊具や体験コーナー・相談機能を備えた子育て支援のための「（仮称）親子交流施設」を整備しています。

　また、保育園・小中学校にはエアコン設置やトイレの洋式化を含む保育・教育環境の整備を加速するほか、各種支援員の増員を進めています。このほかにも、「定住・移住促進奨励金制度」による若者の定住支援も進めています。

　今後とも、新時代の子ども・若者を積極的に応援し、市民の皆さんが元気となる渥美半島を実現してまいります。

プロフィール

◆**面積**　191・12㎢
◆**人口**　6万2673人
◆**世帯数**　2万2443世帯

【将来都市像】うるおいと活力のあるガーデンシティ

【まちの特徴】愛知県の最南端、渥美半島に位置し、日本一の農業をはじめ、漁業・商工業・観光など産業が活発なまち

【市町村合併】平成15年8月20日、田原町と赤羽根町が合併し市制施行、平成17年10月1日、渥美町と合併

【特産品】花卉（産出額日本一）、農畜産品（キャベツ、トマト、ブロッコリー、メロン、牛肉、豚肉など）、海産物（あさり、しらす、のりなど）

【観光】伊良湖岬、日出の石門、蔵王山、サンテパルクたはら、太平洋ロングビーチ、田原城址、田原まつり会館

【イベント】渥美半島菜の花まつり、田原凧まつり、トライアスロン伊良湖大会、田原祭り、中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会

田原市長
山下政良

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る ４

「子育て世代に選ばれるまち」を目指して「ながと成長戦略推進事業」を展開

長門（ながと）市（山口県）

──長門市長　大西倉雄（おおにしくらお）

青海島自然研究路にある展望台「碧濤台（へきとうだい）」からの眺め

自然豊かなまちが、人々を魅了する

長門市は、本州の最西北端、山口県の西北部に位置し、北側には北長門海岸国定公園に指定される、美しい日本海の風景が広がっています。日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在しています。北長門海岸国定公園に指定される海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出しています。中でも紺碧（こんぺき）の海上に奇岩怪石が連なる海上アルプス「青海島」、はるか日本海を展望できる「千畳敷」、海に浮かぶ「棚田」のシルエット、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了します。また、本市は温泉にも恵まれ、湯本温泉など、風情も効能も異なる５つの温泉郷があります。

一方、いのちと心を大切にした童謡詩人・金子みすゞや、シベリヤ・シリーズで知られる画家・香月泰男といった偉人たちの存在は、長門の文化を深く魅了させ、歴史の舞台では大内氏終焉（しゅうえん）の地として語り継がれ、楊貴妃伝説などロマン溢れる物語も数多くあります。

所得の向上と雇用の創出

本市では、２０１３年度から産業の活性化を目指し、所得の向上と雇用の創出を目標に、「ながと成長戦略行動計画」に基づき、一市一農場構想の推進、地域商社の設立、道の駅センザキッチンの整備、長門湯本温泉観光まちづくりなど、多様な取り組みを進めてまいりました。

１点目に、地域経済を活性化するには、「外貨の獲得」と、地域から外へ流出する資源を縮小する「サプライチェーンの域内化」が重要であり、特に、外貨獲得力や雇用吸収力が高く、本市の産業を牽引（けんいん）する「食品製造業」や「宿泊業」を核に、１次、２次、３次産業が連動し、農林水産物などの原材料供給や付加価値の向上など、地域内経済の循環を高め「地域を牽引する産業の強化」を図ることを目標としています。

２０１７年の本市の観光客数は、過去最高の約２１５万人となりましたが、その中でも道の駅（７月には海の駅としても認定）として、本年４月にグランドオープンした「センザキッチン」は、開業１３４日目で来場者数50万人を達成するなど、順調に実績を伸ばしており、「食」や「観光」の魅

123基の鳥居が並ぶ「元乃隅神社」

力発信、地域の価値の創造や稼ぐ力を伸ばす絶好の機会を地域にもたらしました。

また、2017年、来場者が約108万人を数えた元乃隅（もとのすみ）神社は、懸案でありました有料駐車場や直売所の整備を完了し、利便性の向上とともに稼ぐ仕組みづくりが交流人口の増加によって実現されたところです。

2点目に、未来を創造する産業基盤を確保・育成し、地場産業と連携した「ひとづくり」や、新たな成長を生む産業の創造にも取り組んでいます。

まず、「ひとづくり」については、本年10月開設の長門しごとセンターを拠点に、企業と一体となって、中・高校生のキャリア教育や社会人のスキルアップ教育などにより、財産としての「人財」育成に取り組んでいます。

道の駅センザキッチンに併設された「長門おもちゃ美術館」

また、新たな成長を生む産業として、「林業・木材産業」の振興に取り組み、国のモデル地区として、豊富な森林資源から利益を生み、担い手育成など「林業成長産業化地域構想」を進めるとともに、道の駅の一角に開業した「長門おもちゃ美術館」を拠点に、NPO法人「人と木」と一体となった「木育」も推進しています。

3点目に、地域・民間・行政の連携による能動的まちづくりの推進を行っています。

特に長門湯本温泉においては、2019年度の星野リゾート「界」の進出、民設民営による温泉施設「恩湯」整備が具現化する中で、人気温泉地ランキング10位以内を目指した、まちづくり計画の実現に向けた動きが本格化しており、公民連携による新たな取り組みが進んでいます。

成長戦略推進を深化させ地方創生を加速

本市の喫緊の課題である人口減少に立ち向かい、所得向上と雇用創出により地域経済の再生を図るため、全国に先駆け取り組んできた「ながと成長戦略」の事業展開が、国の地方創生の取り組みと相まって、これまでまいた種は着実に成長を遂げ、いよいよ蕾（つぼみ）となり、まさに花が咲き始めていると実感しているところです。

今後は、市民や事業者の皆さまとの協働のもと、「ながと成長戦略」をさらに深化させ、点から線へ、さらには面へと、まちづくりを着実に進め、「成長への期待」を「成長の実感」に変えることにより、子育て世代に選ばれ、生涯暮らし続けたいと思える「新たな長門市の創造」へ、一歩前進できるものと考えています。

プロフィール

◆面積　357.31㎢
◆人口　3万4402人
◆世帯数　1万6057世帯

〔将来都市像〕 ひとが輝き、やさしさがこだまするまち長門

〔まちの特徴〕 北長門海岸国定公園に代表される豊かな自然景観と温泉、歴史文化が融合したまち

〔市町村合併〕 2005年3月22日、長門市、三隅町、日置町、油谷町による対等合併

〔特産品〕 仙崎かまぼこ、仙崎イカ、焼き鳥、長州ながと和牛、長門ゆずきち、萩焼深川窯など

〔観光〕 青海島、長門湯本温泉、元乃隅神社、道の駅センザキッチン、金子みすゞ記念館、長門おもちゃ美術館

〔イベント〕 通くじら祭り、JAL向津具ダブルマラソン、みすゞ七夕笹まつり、西日本やきとり祭りin長門

長門市長
大西倉雄

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。